



I Promise our
Performance for your
Profit

製品導入事例

アイピーキューブの製品とシステムインテグレーション支援で 新規クラウドサービス認証基盤のスピード開発に成功

富士通 株式会社 様



PROFILE

トータルソリューションビジネスを提供する総合ITベンダー。ICT分野において各種サービスを提供するとともに、サービスを支えるプロダクトおよび電子デバイスを開発、製造、販売、保守運用。
設立1935年。資本金3,246億円（2016年3月末現在）。

本店：神奈川県川崎市中原区上小田中四丁目1番1号
本社：東京都港区東新橋一丁目5番2号 汐留シティセンター



多要素認証システム
AuthWay



シングルサインオンシステム
CloudLink

富士通は、クラウドサービス「FUJITSU Cloud Service K5」の認証基盤をCloudLinkとAuthWayを用いて構築。アイピーキューブは豊富な経験と技術力を発揮して短期開発をサポートしました。



新規クラウドサービスの認証基盤を、強固に、しかも、相互接続性を確保しながら、スピード感をもって開発したい。



アイピーキューブがシステムインテグレーションをサポート。実質4カ月の短期間で、強固かつ柔軟な認証基盤開発に成功。

基盤技術の「ホワイトボックス化」がクラウド移行を促進する

「FUJITSU Cloud Service K5（以下、K5）」は、富士通のパブリッククラウドサービスです。OpenStackをはじめとするオープン技術と、富士通が培ってきた知見やノウハウとを融合して、利用企業のビジネスの加速に貢献するIaaSとPaaSを提供します。

「IaaSのオーケストレーションをはじめ基盤構築をオープン技術で一貫させ、運用のしくみまでお客様に見えるようにしました。この『ホワイトボックス化』こそが、K5の強みであり、特長なのです」と、デジタルビジネスプラットフォーム事業本部 ビジネスプラットフォームサービス統括部 シニアマネージャーの松本修氏。

企業内システムをパブリッククラウドへ移行すれば、リソー

ス需要の変化に応じてプロビジョニングを自動的にしながら、大きなコストメリットを得られることに多くの企業は気づいています。けれども、従来のパブリッククラウドサービスは、運用実態がブラックボックスであり、障害の原因が詳細に説明されないなどの不安があるため、移行に踏み切ることができませんでした。特に富士通の顧客は、社会インフラ的なサービスを提供する企業、ミッションクリティカルなシステムを抱える企業などが多いです。

「パブリッククラウドサービスでありながら説明責任まで果たすK5ならば、これまではクラウド化を断念していたシステムでも、安心して移行することができるのです」と松本氏は思いを語ります。

富士通株式会社
デジタルビジネス
プラットフォーム
事業本部
ビジネス
プラットフォーム
サービス統括部
シニアマネージャー
松本 修氏



「アイピーキューブの製品を導入したというより、一緒に走りながらシステムインテグレーションしました」

認証基盤の構築もオープンな世界標準技術で一貫

K5は、IaaSやPaaSのさまざまなコンポーネントをクラウドサービス利用者へタイムリーに提供するサービスであり、利用者の利便性とセキュリティを確保するために、認証基盤の確立が不可欠です。

「信頼性と、拡張性・相互接続性に富んだ認証基盤を、短期間かつ低コストで開発しなければなりません。また、新規事業の立ち上げですから、スピード感を重視しました」と松本氏は言います。

備えておくべきと判断した機能は、シングルサインオン（SSO）、電子証明書認証のほか、ワンタイムパスワード（OTP）や、スマートデバイスを利用した二経路認証などの多要素認証にまで及びます。

Keystone、OpenAMなどのオープン技術も検討しましたが、多様な機能を信頼性の高い事業基盤として実現するには、相当な工数のインテグレーションが必要でしたし、レガシーシステムまで包含

できるような相互接続性も不足していました。

そこで、慎重な検討を経て行き着いたのが、アイピーキューブのSSOシステム「CloudLink」と多要素認証システム「AuthWay」の組み合わせです。

「SSO、業界標準OATHに準拠したOTPなど、K5が必要とする技術を最初から標準で網羅しているため、追加開発が必要ありません。また、世界標準のLDAP認証とSAML認証連携を2本柱にすることで、

